

第31回日本受精着床学会

2013.08.08-09 大分

精液採取から ICSI までの所要時間は受精率に影響を及ぼさない

宮本 麻梨恵 中野 達也 松本 由香 佐藤 学 赤松 芳恵 橋本 周 前沢 忠志

姫野 隆雄 大西 洋子 井上 朋子 伊藤 啓二郎 中岡 義晴 森本 義晴

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【目的】日本泌尿器科学会の精液検査標準化ガイドラインでは、精液採取後 1 時間以内に精液を持参することが望ましいとされているが、実際には困難な場合が多い。我々は conventional-IVF において精液採取から媒精までの所要時間の超過が受精率に影響することを明らかにした(宮本ら 2012)。今回、ICSI でも同様の検討を後方視的に行った。【対象と方法】本研究は 2011 年 1 月～2012 年 4 月に十分なインフォームド・コンセントが得られ、総精子濃度が 20 万精子/ml 以下で ICSI を施行した 218 周期を対象とし、それらの精液採取から ICSI までの経過時間別に正常受精率を比較した。精液は密度勾配遠心法と Swim-up 法を用いて処理し、ICSI を行った。検討 1：精液採取から処理開始までの時間経過が受精率に及ぼす影響を調べた。検討 2：処理から ICSI までの時間経過が受精率に及ぼす影響を調べた。検討 3：精液採取から ICSI までの時間経過が受精率に及ぼす影響を調べた。【結果】検討 1：自宅及び当院で精液採取後、処理を行うまでの時間を 1 時間未満、1-3 時間未満、3 時間以上で比較すると受精率はそれぞれ 76.4%、75.1%、75.5% となった。検討 2：処理から ICSI までの時間を 3 時間未満、3-5 時間未満、5 時間以上で比較すると受精率はそれぞれ 75.4%、78.2%、68.8% となった。検討 3：精液採取から ICSI までの時間を 5 時間未満、5-7 時間未満、7 時間以上で比較すると受精率はそれぞれ 78.8%、69.5%、75.3% となり、いずれの比較でも有意差は認められなかった。【考察】精液採取から ICSI までの経過時間は受精率に影響しないことが示唆された。ICSI の場合、経過時間が精子に与える運動性などの機能低下を無視出来るため、受精率には影響を与えないのではないかと考えられた。